

平成30年度 第3回大和市スポーツ推進審議会 会議録

会議名	平成30年度 第3回大和市スポーツ推進審議会		
開催日時	平成30年10月29日（月）午後3時～午後4時45分		
開催場所	大和スポーツセンター体育会館 第3会議室		
出席状況	委員	10人（荻窪会長、姉崎副会長、池上委員、古市委員、荘委員、藤倉委員、戸祭委員、熊野委員、菅沼委員、金田委員）	
	事務局（担当課）	6人（スポーツ課長、他担当5名）	
	傍聴人	0人	
担当課	文化スポーツ部スポーツ課地域スポーツ・女子サッカー支援担当 内線（5763）		
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開		
<p>1. 会議次第</p> <p>（1）あいさつ</p> <p>（2）議題</p> <p style="padding-left: 20px;">①スポーツ施設等における平成30年度上半期指定管理業務について</p> <p style="padding-left: 20px;">②（仮称）第2期大和市スポーツ推進計画（案）について</p> <p>（3）報告</p> <p style="padding-left: 20px;">①平成30年度「大和市駅伝競走大会」について</p> <p style="padding-left: 20px;">②主なスポーツ事業（12月～3月）について</p> <p>（4）その他</p> <p>2. 審議又は検討経過及び結果 主な内容は次のとおり</p> <p style="padding-left: 20px;">【議題①スポーツ施設等における平成30年度上半期指定管理業務について、事務局より説明】</p> <p>●委員</p> <p style="padding-left: 20px;">宮久保野球場の利用者数減少の理由として、施設を利用する少年野球チームの減少が挙げられたが、宮久保野球場は年間の利用スケジュールを組む段階で少年野球チームではなくソフトボールチームが利用することとなっているはずである。回答は不要だが、そこを確認しておいてほしい。</p> <p style="padding-left: 20px;">また、今年度、草柳庭球場、ゆとりの森テニスコートの両方で利用者が減少しており、その理由として、利用者に高齢者が多いことや猛暑日が多かったことが理由という説明があった。利用者が減少するならば、庭球場を複数設置するのではなく、いずれかの場所に集約してもよかったのではないか。</p> <p>○事務局</p> <p style="padding-left: 20px;">今年は猛暑の影響で、外出をはじめスポーツを控えられた方が多くなったと考えています。</p> <p style="padding-left: 20px;">市では、夏休み期間中、学校のプール開放を行っていますが、今年は開放日のうち気温が35度を超える日が半分以上あり、そのような日は利用者が減少しているという統計もあります。</p> <p style="padding-left: 20px;">高齢の方が多いい庭球場でも、利用者の中で暑い中での運動を避けることが浸透し、今年の利用者数の減少は、プレーヤーの減少ではなく猛暑の影響が大きいと考えています。</p> <p style="padding-left: 20px;">【議題②（仮称）第2期大和市スポーツ推進計画（案）について、事務局より説明】</p> <p>●委員</p> <p style="padding-left: 20px;">今回の推進計画案は全体としてよくまとまっていると感じるが、「つながる」は大和市独自のものか。「する」「みる」「ささえる」はLet's（しよう）と行動を伴うのに対し、「つながる」だけが突出しているように感じる。意味がわかりづらいのではないか。「つながる」という言葉がずっと入っていけるか少し心配である。</p> <p style="padding-left: 20px;">また、学校における子どもの体力向上についても記載されているが、体育の時間も休憩の時間も運動をしており、大きな意味で学校教育の場に社会体育が入っていこうとしていることか。</p>			

当審議会の委員からの「第2期大和市スポーツ推進計画（素案）に対する意見書（当審議会の委員に子どもの枠を設けたらどうか）」について、市の回答が述べられているが補足させていただくと、スポーツ少年団にはリーダー会という組織があり、各団から2名ずつの小学生がスポーツを通じた交流を行っている。そうしたことから、スポーツ少年団は総合型地域スポーツクラブとも情報を共有できている。

○事務局

「する」「みる」「ささえる」は、国の基本計画の中にもある言葉ですが、「つながる」についても、第2期の基本計画で、「ひろげる」とか「つなげる」といった言葉が出てきています。また当推進計画の上位計画にあたる「大和市総合計画」においても健康に「つなげる」個別計画を設けており、その絡みも含めて「つながる」を設けました。少し聞き慣れないという感じがあるかもしれませんが、こういった「つながる」取り組みをしていきたいということで、今回の推進計画（素案）から「つながる」スポーツを記載しています。

学校における子どもの体力向上に関する部分では、前回の審議会でも述べたとおり学校教育の分野に入っていくものではありません。前回、藤倉委員からもご意見をいただきましたが、子どもの運動をする子としない子の二極化が見られている中で、少しでも運動する機会、環境を提供したいと考え、その取り組みを計画に盛り込んでいるものです。学校教育の部分で何かをやっていただくということではありません。

補足として、学校をはじめとした子どもの体力向上における取り組みについては、国の第2期計画で、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策に含まれており、指導室とも調整を図りながら、この計画が、学校現場や教育に影響がないものとして、学校体育以外の取り組みとして掲出させてもらっています。

●委員

学校教育については、学習指導要領に則って行うことになるが、子どもにとっては、学校での体力づくりや体づくりと社会体育での体力づくり体づくりが分かれている訳ではなく、大人の側が学校体育と社会体育という形で分けているだけである。学校としても大和市の計画を理解し、スポーツ施策について共有し、子どもの体力向上に向けた取り組みを連携して推進できれば良いと思う。

●委員

「つながる」という言葉は、国や県の推進計画の中には項目としては載っていないが、新規として計画に入れたのは、大和市は健康都市を謳っており、スポーツを通じて、市民の皆さんがスポーツに親しんだり、体を動かしたり、運動をしてほしいというのをメインにしているので、大和市独自の項目として「つながる」という項目を取り入れたものと思われる。

●委員

「健康」と言ったら、にんべんが付き、本来であれば体のことを指すものであるが、大和市の人は、（市の取り組み全体を称していると理解しているので）、社会も体のことも含めて健康な都市、健康なまちとしている。

「つながる」については、「食育」とかにもつながっている。「食育」もスポーツとかかわりが深く、スポーツによる未病の考え方にも「つながる」と考えられる。

●委員

体の健康、心の健康、市民の健康、まちの健康、いろいろな使われ方をするが、そういったことをひっくるめて「健康都市」の考え方だと思う。スポーツをやっている人が病院にかかることが減っているという実績も出ており、国もスポーツの推進に力を入れている。「食育」というのも当然要因として考えられるが、そこまでいってしまうと広がりが大きくなりすぎる感はある。

「する」「みる」「ささえる」「つながる」の4項目を活かし、この計画をそのまま出していただくという形でご理解いただいたということによろしいか。

●委員一同
異論なし

●委員

スポーツと学校体育の中で行う体育は少し違う。ただ、地域に根差したスポーツ事業に子どもたちが参加して、市の取り組みについてご理解いただければと思う。

審議終了。

以上